

うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略策定に関する住民意見交換会

開催報告

主な意見（まとめ）

- ① 域外からの移住の推進について
 - 出身者の移住（Ｕターン）を優先するが、他地域からの移住も受け入れる。
 - 移住者が一緒に地域活動をしてくれるなら移住受け入れに賛成。
 - 空き家活用は、老朽化やトートローマーの問題があり、難しいのではないか。
 - 空き家利用には、一部リフォームの助成や、家主と借主のマッチングが必要である。
 - 島出身者や移住者のための市営住宅の建設を望む。
 - トートローマーの解決策として、トートローマー団地をつくって祀ってはどうか。
- ② 結婚・出産・子育て環境の充実
 - 独身男性が多く、婚活の需要があり、機会をつくる必要がある。
 - 島内在住者の保育園への入園を優先すべきである。
 - 若いママさんの相談等に乗れ、育児に対する不安の解消を図る。
 - 移住手当、子育て手当、減税のためのしくみづくりが必要。
 - 医療、保育、福祉などの機能を併せ持った複合施設の整備が必要。
 - 高校や塾への通学には自家用車やバス、助け合いで対応しているので支援が必要。
- ③ 若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について
 - 耕運機が入れないなどの農道整備の遅れや、耕作放棄地が増えている。
 - 水産物の加工工場の立地を検討。
 - 野菜工場や観光農園など作ってはどうか。
 - モズク、ニンジン、イモの六次産業化推進のためのバックアップが必要である。
 - 各島の特色を活かし、それぞれの特産品でブランド化を図ってはどうか。
 - 東海岸には有数のサンゴ礁群があり、ダイビングの誘致などもっと有効活用すべきである。
- ④ 生活環境基盤の充実
 - 以前から道路や排水設備の整備要望があるので早期の実現を。
 - 通信環境が良好でないことから整備が必要である。
 - 移住にネット環境は影響がある。ネットを使って仕事をする人にとっては必要。
 - 架橋が実現すると仕事が増え、若い人が来る。（津堅島）
 - 交通の便が悪く、船便で費用がかかる。橋を架けてほしい。（津堅島）
 - 廃棄物の処理問題があり、小型焼却炉の設置が望まれている。（津堅島）
- ⑤ その他
 - 総合戦略の素案が出来た段階で、もう一度、島しょ地域での住民意見交換会の開催を望む。
 - 新たな交付金が市街地を中心に使われないか。島しょ地域にしっかり回してもらいたい。

1 開催の趣旨

今後目指すべき将来方向と望むべき人口の将来展望を提示する「うるま市人口ビジョン」(案)で描く将来展望を示し、これを実現するための今後5カ年の目標や施策の基本的方向、具体的施策等をまとめた「うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の策定に向け、計画に対する住民の意見を聞くことを目的として実施した。

2 開催内容

2-1 浜比嘉島

(1) 開催概要

- ◆日 時：平成27年10月5日(月)午後7時～9時
- ◆場 所：浜公民館
- ◆参加者：浜比嘉島住民16人、オブザーバー1人、市職員3人、コンサルタント2人
- ◆プログラム：1 開会、あいさつ
- 2 事務局紹介
- 3 意見交換会の進め方について
- 4 意見交換会
 - (1) うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - (2) うるま市人口ビジョン島しょ地域編(案)について
 - (3) 市民アンケート調査結果の概要(速報)について
 - (4) 総合戦略策定に向けた意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

(2) 意見の内容

①域外からの移住推進について

〈基本的な考え〉

○人口減少を減らすためには、まずは魅力ある地域づくりが必要である。

〈自治会活動〉

○人口減少対策として、自治会活動を活発にする必要がある。

○引っ越してきた人と公民館・地域の人との活動は良好である。

〈住宅の整備・確保〉

○人口減少対策として、住むところの確保・整備が必要である。

〈公営住宅の整備〉

○著しい人口減少傾向を見ると、大きな団地をつくるなどの大きな施策の取り組みが必要である。

○公営住宅を新しく作る場合、島外の人を優先してよいかについては、意見がまとまらなかった。

○市営住宅を建設し、島外の人を受け入れることについては、おおむね了承された。

〈空き家住宅の利用〉

○空き家住宅の利用については、反対はなかったが、賛成というわけでもない。

○トートーメー(位牌)が祀って有り、他者に貸すことには難しさがある。

○トートーメーが有っても本土の人は借りてもいいという人は多い。

○トートーメーが有る場合、沖縄の人は借りる人が少ない。

- トートーメーの解決策として、トートーメー団地をつくって祀ってはどうか。
- 今後、調査・検討を進めていく。次年度に家主の意向を確認したい。
- 〈定住者住宅の不足〉
- 島のモズク事業に従事している人で、島内に住む家がないため、本島に住み島へ通っている。
- 次男・三男は島に住めないなので、本島でアパートを借りて暮らしている。

②結婚・出産・子育て環境の充実について

- 結婚したいが、出会いの機会がないという人が多い。
- 婚活の需要があり、機会をつくる必要がある。
- 子育て支援を充実する必要がある。
- 医療環境を充実する必要がある。
- 子どもの塾は、本島まで通わせている。
- 若い人は生活の便利なところが良い。

③若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について

- 移住と仕事の創出を充実させないと他の2つの方向性につながらない。
- 〈農業〉
- 農業をやりたい人はいるが、農道の整備が遅れ、耕運機が入れないなどしてできない状態。
- 農業ができないことによる耕作放棄地が増えている。
- 農業用水を引けず、活性化に支障をきたしている。
- 〈観光〉
- 魅力ある仕事として、観光は有望である。
- 観光客は、勝連城址からあやはし館まで来て帰ってしまい、島には来ない。
- 観光客があやはし館から島しょ地域に来るような仕組みづくりが必要である。
- あやはし館から島しょ地域を巡る遊覧船を出す。
- 水陸両用船の導入を図る。
- 一島一株式会社 of 島の構想を進め、島ごとの中心的な起爆剤としていく。
- 学校跡地の利用を。
- うるまブランドが少ない。

④生活環境基盤の充実について

〈道路・交通〉

- 利便性が島しょ地域の問題。
- せめて、海中道路の強風による年25回程度発生する通行止めを減らす対策を講じてほしい。

〈下水道〉

- 以前から道路・排水整備の要望がある。
- 汲み取り式便所の改善を。合併浄化槽への助成。
- 家庭の生活排水が水路に流れ込み、夏は臭う。
- 津堅島の下水処理には集落排水が整備されている。しかし、接続していない家庭もある。

〈通信〉

- 通信環境が良好でないことから整備が必要である。
- ドコモが入る程度。au、ソフトバンクは入りづらい。
- 無線はあるがスピードが遅い。

○光回線の整備が望まれる。

⑤その他

○行政の機能を縦割りではなく、横断的にする必要がある。

(3) 意見交換会の様子



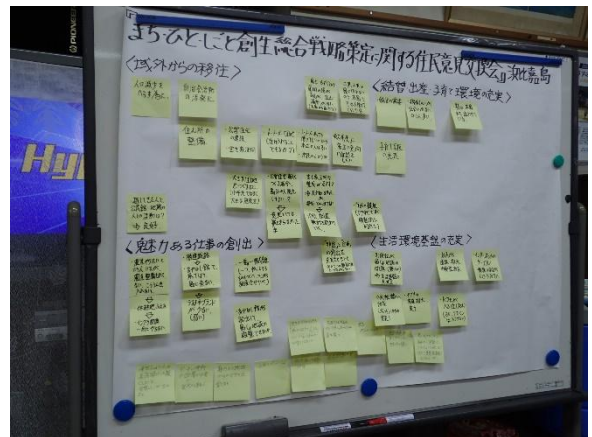
■あいさつ、趣旨説明



■総合戦略等の説明



■住民との意見交換



■出された意見の整理

2-2 平安座島

(1) 開催概要

- ◆日時：平成27年10月6日（火）午後7時～9時
- ◆場所：平安座自治会館
- ◆参加者：平安座島住民13人、市職員3人、コンサルタント2人
- ◆プログラム：1 開会、あいさつ
- 2 事務局紹介
- 3 意見交換会の進め方について
- 4 意見交換会
 - (1) うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - (2) うるま市人口ビジョン島しょ地域編（案）について
 - (3) 市民アンケート調査結果の概要（速報）について
 - (4) 総合戦略策定に向けた意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

(2) 意見の内容

①域外からの移住推進について

〈基本的な考え〉

- 人口減少に際し、そこに住むことができないことから考える必要がある。
- 4島で特別委員会をつくって、人口問題を検討したらどうか。
- 若者世代に合わせた生活習慣も受け入れる必要がある。
- グループに入れない問題もある。地域の発展性につながらない。

〈移住施策〉

- 内地からの移住は反対である。
- 移住施策には反対。自分の足元から取り組むのが先決である。
- 域内、県内、内地、外国などからの受け入れには賛成である。
- 人口を増やすことを考えれば移住を受け入れる必要がある。
- 出身者の移住（Uターン）を優先するが、他地域からの移住も受け入れる。
- 郷友会を活用し、次男・三男を戻らせるためのPRを行う。
- 域外からの移住動向を把握するため、状況把握調査が必要である。
- あやはし小・中学校は、他地域からの生徒も受け入れている。活性化と家族の移住を進める。

〈住宅施策〉

- 空き家活用は、トートナーの問題があり、難しいのでは。
- 空き家は老朽化しており利用は難しい。
- 空き家のうち、住める家は150戸、住めない家は20戸がある。
- 平安座では、かつて空き家利用を試みたが、実現したのは1戸のみであった。
- 小規模家屋の整備を。
- アパートの整備を。
- 公営住宅の整備を。
- 田舎の再開発や市が住宅を借り上げて貸すのはどうか。
- 住宅の流動化が必要である。

②結婚・出産・子育て環境の充実

〈結婚〉

- 結婚ができないのは収入がないため。
- 独身男性を結婚させる必要がある。40歳代、50歳代、60歳代にも独身者がいる。
- 婚活の実施を。

〈出産・子育て環境〉

- 出産手当の充実。
- 仕事しないと保育園に預けられない、その改善を望む。
- 期間限定で、仕事を探す間は保育園に預けることができるようにする。
- 島内在住者の保育園への入園を優先すべきである。
- 人口減少には、住宅不足、子育て環境が良くないことが影響している。
- 宮城児童館の存続を望む。
- 個人個人の能力を生かした教育を。
- 教育など子育て環境をつくることが大切である。
- 学童の充実
- 移住手当、子育て手当、減税のためのしくみづくりが必要。
- 教育・医療など、この島に来ればメリットがあるというような、ライフワークの設定が必要である。
- 医療、保育、福祉、住宅などの機能を併せ持った、老人・学童・若者が利用する複合施設の整備が必要である。
- 利便性が悪いため、若い人は住まない。

③若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について

〈考え方、体制等〉

- 島内できちんと仕事をつくる必要がある。
- 企業誘致のビジョンを持つ必要がある。
- 内地企業が立地しても本社が東京にあるため、税金が沖縄に落ちない。
- 特別区の指定を行う。税制、手当で、企業立地などの優遇を図る。
- 5島には、島のことを考える「郷友会」がある。

〈具体的施策〉

- パラリンピックの誘致、里づくり
- 下水道の整備や空き家利用は、短期ではあるが建設にかかる雇用が期待される。
- 製油跡地 18万坪の活用を。60年の借地権が後13年で切れる。石油会社等に企業誘致などを働きかける。
- 水産物の加工工場の立地を検討。
- 特産品の開発を行う。
- 東海岸フィッシャリーナ構想の調査を。
- 東海岸には有数のサンゴ礁群があり、もっと有効活用すべきである。
- ダイビングの誘致を
- ろうあ、視覚障がい者の就業施設をつくる。
- 福祉施設の誘致等、魅力あるものを探す。
- 宮城中学校跡地に専門学校の誘致
- うるま市に専門学校がないので作ってほしい。

○ホテルの誘致には建築規制（高さや景観の規制など）の問題がある。

④生活環境基盤の充実

○インフラは整備されたが、人口減っている、どうしてか。

○下水道の整備を早期に実現。

○花いっぱい運動などを行い、良い環境を創出する。

○荒廃イメージのある廃屋を撤去する必要がある。

○光回線の整備が必要である。

⑤その他

○総合戦略の素案が出来た段階で、もう一度、島しょ地域での住民意見交換会の開催を望む。

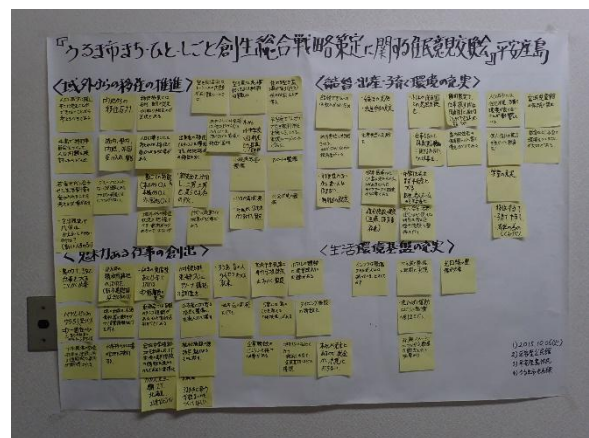
(3) 意見交換会の様子



■あいさつ、趣旨説明



■住民との意見交換



■出された意見の整理

2-3 津堅島

(1) 開催概要

- ◆日時：平成27年10月7日（水）午後1時～2時30分
- ◆場所：津堅島離島振興総合センター
- ◆参加者：津堅島住民15人、市職員4人、コンサルタント2人
- ◆プログラム：
 - 1 開会、あいさつ
 - 2 事務局紹介
 - 3 意見交換会の進め方について
 - 4 意見交換会
 - (1) うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - (2) うるま市人口ビジョン島しょ地域編（案）について
 - (3) 市民アンケート調査結果の概要（速報）について
 - (4) 総合戦略策定に向けた意見交換
 - 5 その他
 - 6 閉会

(2) 意見の内容

①域外からの移住の推進について

- 移住受入については、概ね賛成である。
- 移住受入は市営住宅になるのか。
- 移住者向けの公営住宅という動きもある。
- 次男・三男や母子家庭のための市営住宅の建設を望む。
- 津堅島モズク漁に本島から船で通っている人がおり、こういう人が島に住めるようになれば良い。
- 本島から通ってくる人に、どういった住宅が良いのか意向調査を行えばどうか。
- トートナーの問題はあるが、早期の住宅提供に空き家活用は有効である。
- 津堅島の空き家は、リフォームしないと住めない。
- 空き家利用には、一部リフォームの助成が必要である。
- 空き家利用には、家主と借主のマッチングが必要である。

②結婚・出産・子育て環境の充実

- 津堅島には独身男性が多く、若い女性が少ない。
- 婚活はあってもよいのでは。
- 島には乳幼児はいないから、保育園は必要ない。仮にいても周りの人が面倒を見る。

③若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について

- 仕事があつてこそ若者が移住してくる。
- 企業が入ってこないとも仕事も生まれない。
- モズク、ニンジン、イモの六次産業化推進のためのバックアップが必要である。
- 特産品として、世界一のモズクと津堅ニンジンがあり、これらを活かした六次産業の振興を図る。
- 現在、島おこし事業の取り組みがなされている。
- 橋があると本島まで通え、しごとが選べる。

④生活環境基盤の充実

〈架橋〉

- 仕事があってこそ若い人が来る。そのためにも橋を架けてほしい。
- 架橋が実現すると仕事が増える。
- 島には農業しかなく、仕事の選択肢がない。島内外で新たな仕事場づくりには橋が必要である。
- 交通の便が悪い。船便で費用がかかる。橋を架けてほしい。

〈廃棄物〉

- ゴミの投棄が見られる。住民のモラルを改善する必要がある。
- 廃棄物の処理問題があり、小型焼却炉の設置が望まれている。

〈島内交通〉

- 公共交通機関は無い。あれば便利だが。
- レンタル自動車（E V車等）があってもよいが、免許や資格の問題がある。

(3) 意見交換会の様子



■あいさつ、趣旨説明



■総合戦略等の説明



■住民との意見交換



■出された意見の整理

2-4 伊計島

(1) 開催概要

- ◆日時：平成27年10月8日（木）午後7時～9時
- ◆場所：伊計公民館
- ◆参加者：伊計島住民6人、オブザーバー2人、市職員3人、コンサルタント1人
- ◆プログラム：
 - 1 開会、あいさつ
 - 2 事務局紹介
 - 3 意見交換会の進め方について
 - 4 意見交換会
 - (1) うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - (2) うるま市人口ビジョン島しょ地域編（案）について
 - (3) 市民アンケート調査結果の概要（速報）について
 - (4) 総合戦略策定に向けた意見交換
 - 5 その他
 - 6 閉会

(2) 意見の内容

①域外からの移住の推進について

- 移住者が一緒に地域活動をしてくれるなら移住受け入れに賛成。
- 移住は全体として賛成。
- 移住受入には芸術家を希望する。
- 地域文化等の継承を図る。
- 島の魅力を感じて入ってくるため、島の魅力アップを図る必要がある。
- ホテルの誘致や圃場整備等を行ったにもかかわらず、人口は流出している。
- 空き家活用には自治会を通じて行くと安心感が得られる。
- 空き家利用にはトートナーの問題がある。
- トートナー対策の工夫を検討する。
- リフォームには市等の支援を検討する。

②結婚・出産・子育て環境の充実

- 収入が低いと子どもを多く産むのは困難。
- 若者独身者が10名ほどいる。
- 50代、60代の独身者男性が多い。
- 独身者には農業の方が多い。
- 子育てには会社の理解が必要である。
- 婚活の必要性有りか。
- 結婚相談の登録や、助成の検討を。
- 保育や学童等に預けると迎えが大変。
- 高校の通学には自家用車で送り、帰りは助け合いやバスで対応している。
- 救急車が平安座から来るのに20分かかる。白タクや救急車配当の救急対策を望む。
- 救急と高齢者対応を考え、診療所の開設を。
- 学校がないのもネックになっている。

③若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について

- 港は港湾であるため漁船の係留ができず、漁業活動に問題が生じている。
- 域外から漁協に通勤している人が6名いる。
- 農業はイモ、キビ、たばこの3作物が主である。黄金イモに着目されている。
- 農業は高齢者が多く、若者に機械作業を依頼している。
- 地元にあるホテルとは雇用面でうまくマッチング出来ていない面がある
- 伊計ビーチで働いている人は域外から来ている。
- 伊計ビーチで働くとしても、アパートを借りてまでは生活が成り立たない。
- 伊計小・中学校跡を利用した通信制高等学校の教育スタッフの募集がはじまる。
- カフェなどがあってもよいのでは。

④生活環境基盤の充実

- 幹線道路は整備されているのでは。
- 集落内道路には狭い箇所がある。整備には景観の保全等の配慮が必要である。
- 下水道の整備が遅れている。
- 浄化槽の整備には市が30万円程助成している。
- 時々停電が発生し、自家用発電機を使うこともあり、電力の安定供給を望む。
- 通信環境の充実のため、光回線の整備を望む声有り。
- 光でなくても同程度の能力があれば検討を。
- 移住にネット環境は影響あり。ネットを使って仕事をする人にとっては必要。

(3) 意見交換会の様子



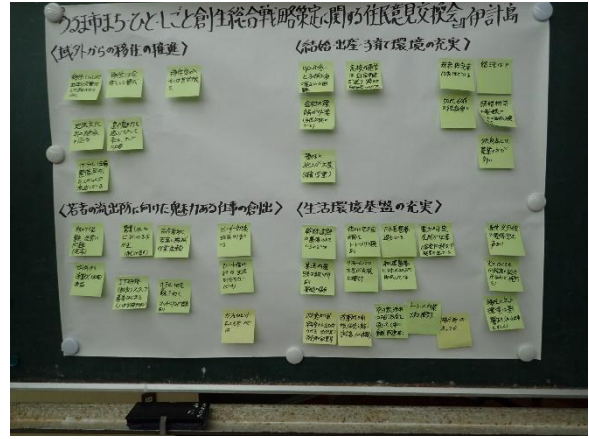
■あいさつ、趣旨説明



■総合戦略等の説明



■住民との意見交換



■出された意見の整理

2-5 宮城島

(1) 開催概要

- ◆日時：平成27年10月9日（金）午後7時～9時
- ◆場所：上原公民館
- ◆参加者：宮城島住民22人、オブザーバー1人、市職員3人、コンサルタント1人
- ◆プログラム：1 開会、あいさつ
- 2 事務局紹介
- 3 意見交換会の進め方について
- 4 意見交換会
 - (1) うるま市まち・ひと・しごと創生総合戦略の概要について
 - (2) うるま市人口ビジョン島しょ地域編（案）について
 - (3) 市民アンケート調査結果の概要（速報）について
 - (4) 総合戦略策定に向けた意見交換
- 5 その他
- 6 閉会

(2) 意見の内容

①域外からの移住の推進について

- 本土からの移住は賛成。
- 住める空き家がない。
- 内地から子連れの人が何件も家を探しに来ている。しかし、貸せる家がないため移住者を逃がしてしまった。
- 風呂とトイレの問題がある。
- 借りてもいいなと思うように、草刈、家や庭をきれいにするなど必要では。
- 移住意向のある人は、自然豊かな所に住みたいという思いがある。
- 公営住宅の建設要望は、市に出してある。
- 空き家のリフォームや取り壊しに係る費用より、公営住宅の方が現実的ではないか。
- 各島にふさわしい規模の市営住宅の建設を。（オブザーバー発言）
- 定年世代の人が来ることにより、若い人も来る。
- 国保や介護などの保険料が高いため、定年者が移住しづらい、ためらいがある。

②結婚・出産・子育て環境の充実

- 独身者が多いため、婚活的な取組を。
- 若いママさんの相談等に乗る、育児に対する不安の解消を図る。

③若者の流出防止に向けた魅力ある仕事の創出について

- 仕事がないので、島に来て本島に引っ越す移住者がちらほらいる。
- 東海岸を埋め立てて（島しょ地域）、工場の建設を。
- 農業大学の建設。
- 野菜が少ないため、野菜工場をつくる。
- サトウキビを大規模な畑で栽培し、JAに引き受けてもらうような仕組みづくり。
- 紫のキャベツ、紫の玉ねぎ。ピンクカラーで統一など。
- ドラゴンフルーツを活用したアンタギー、シロップ等の試験作成を行っている。

- 農業だけで若い人は来ない。
- 観光農園が向いているのでは。
- 6次産業化を目指すにあたり、宮城中学校の敷地を考えているという話であったが、それよりも西原が適している。
- 各島一品ずつブランド品を創出。それぞれブランド化に力を入れる。(オブザーバー発言)

④生活環境基盤の充実

- 狭い道幅を広くできないか。
- 名義変更できないため、拡張できない。そこを何とかする方法はないか。
- 側溝の掃除を。
- 高齢化に伴い地域で側溝の掃除ができない。
- 宮城島の名所・史跡など案内板を立てて知ってもらう。
- 市管理の道路で、ぬちま一すの工場からの道路が雑草だらけである。草刈の要請可能か。
- ごみのポイ捨てが多い。
- 看取りを含めた医療・福祉の複合施設を宮城島に建設する。(オブザーバー発言)

⑤その他

- 新たな交付金が市街地を中心に使われないか。島しょ地域にしっかり回してもらいたい。

(3) 意見交換会の様子



■あいさつ、趣旨説明



■総合戦略等の説明



■住民との意見交換



■出された意見の整理